



# さんか

第一一〇号

令和三年  
西暦二〇二一年

曹洞宗 東運寺

TEL ○七五・六三一・一二一七一  
FAX 六三一・五七二一五  
E-MAIL sanga@tounji.net

京都市伏見区淀新町六一八一

## 「お盆の施食会」について

いつもお寺の法要にお参りくださり、誠にありがとうございます。

さて、今年の七月八日（木）のお盆法要については、午前十時より、いつもの施食会法要のみをおつとめする予定です。午前十一時までには終わります。

お参りくださることによって、日々の安穩を得ていただきたく思いますが、今後の状況も、見通しにくいところです。当日はどうか、ご無理のありませんようにお願ひ申し上げます。

## お盆の棚経について

現在のところ、昨年とおなじくお盆の棚経は、お参りする予定です。

棚経にお伺いしている方のところには、このお便りに「棚経のご案内」を同封しています。ご確認のほど、どうかよろしくお願ひいたします。

なお、淀近辺の方には同封しておりませんが、いつも日程でお伺いいたします。ただ、今年は住職ひとりで回るため、いつもより少し遅れるお宅が、あるかも知れません。お問い合わせいただければ、おおよそ何時ごろお伺いできるか、お答えできると思います。

もちろん、強いご不安のなかお迎えくださることは、お寺の本意ではありません。

「心配なので、家族だけでおまつりする」ということがあれば、どうか遠慮なく、ご連絡ください。



大本山永平寺に上山した住職の息子たち二人は、五一日に、修行僧として認められる式をへて、正式に、永平寺に迎え入れられました。

今春の「新人」はおよそ六十名のこと。指導者や、先輩もふくめて一五〇名ほどが、それぞれの部署に分かれて毎日を送っています。

ちなみに、一人は直歳寮（しつすいりょう）という、境内の庭整備や伽藍の護持を担当する部署に、一人は、宝慶寺（ほうきょううじ）という、近くの別の道場にて、日々の行持を勤めています。

今までとはまったく違う環境での生活で、体調の管理など、いろいろと苦労しているようです。

永平寺にいるみんなが力を合わせて切磋琢磨し、ひとりでは得られない経験を、重ねていってほしいと願っています。



<3月8日 唐門(からもん)前にて>

侑亮(ゆうりょうー宝慶寺) 慧亮(けいりょうー直歳寮)

## お盆中に薬師堂を開けます

三月の修復落慶を終えて、お薬師さまはすっかり元通りに落ち着かれました。

七月八日のお盆法要、および、八月八日から十六日まで、薬師堂を開ける予定です。みなさまのお参りをお待ち申し上げております。

コロナ禍において、不安と悩みの絶えない毎日かも知れません。「薬師經」に書かれている、「光明普照」や「除病安樂」などの願いが、お参りになるみなさまの、支えのひとつになれば幸いです。



お薬師さまの胎内に、願いをお納めしています。

## 団参ふたたび中止です

いつも秋に計画している団参（檀信徒親睦研修旅行）が、残念ながら今年も中止になりました。

来年こそは、みなさまとご一緒できるようとに、心より祈っています。



↑ ホームページ

↑ お寺の日常